

## 1 学校教育目標

- ・自ら学ぶ人
- ・心のひろい人
- ・たくましく生きる人

## 2 めす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力と健やかな心と体を着実にほぐむ学校</li> <li>・保護者、地域から信頼され、愛される学校</li> <li>・学校と家庭、地域が一体となり、チームとして教育活動を推し進める学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を見つめ、自ら主体的に学ぶ生徒&lt;四中ACADEMICS&gt;</li> <li>・礼儀正しく思いやりがあり、社会に貢献できる品位ある生徒&lt;四中HOSPITALITY&gt;</li> <li>・夢や目標の実現に向けて、粘り強く自ら主体的に取り組む生徒&lt;四中SPIRIT&gt;</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業や教育環境の充実を目指し、工夫・改善を図る教師</li> <li>・厳しくも、温かく誠実で、生徒の気持ちにより添える教師。生徒の個性や可能性を引き出し伸ばす、面倒見の良い教師</li> <li>・家庭、地域との信頼関係を大切にし、連携、協力しながら、問題解決を図る教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### <学校の現状>

○授業に前向きに取り組む生徒が多く、全体的に落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が実施されている。

○全体的に明るく素直で、学習意欲があり、自己を高めるための努力をする生徒が多い。

○昨年度は、5月の連休以降、感染症が5類扱いとなり、行動制限が緩和され、2学年の職場体験学習や学校全体での合唱コンクールを4年ぶりに実施することができると、生徒の経験の幅が広がった。1年生の魚沼自然教室では、前年度に引き続き、地元の中学生との交流を図り、終了後も交流を続けることができた。

### <前年度の成果と課題>

○前年度は、年間を通した学力向上の取組を通して、3学年全体で平均通過率が80%を超える成果を残した。今年度も、学力調査等の結果・分析に基づき、授業改善及び授業外の学習の取組のより一層の充実を図る。

○学習指導要領を踏まえ、アクティブラーニングの視点(主体的、対話的で深い学び)から、足立スタンダードに基づいた授業改善を推進するとともに、指導と評価の一体化の一層の充実を図る。

○ねらいに応じて、これまでのICT機器の利活用に加え、一人一台タブレットやAIドリル等の効果的な活用を図る。

○ボトルキャップの回収や施設への訪問などに加え、地域清掃ボランティア、夏祭りボランティア、地域伝統文化ボランティア、こども会での演奏活動など、様々なボランティア活動の機会を提供することができるようになってきたので、今後も積極的な参加を促していく。

○学校行事、生徒会活動、委員会活動、係活動、当番活動、部活動等の経験を通して、生徒の主体性や自己肯定感を一層高める。

○不登校問題の解決に向けて、養護教諭、SC、SSW、教育相談コーディネータ、登校サポーター、関係機関、関係小学校等との連携の一層の充実を図る。また、巡回指導教員、専門員、特別支援教育コーディネータを中心に、組織的に連携を図り、特別支援教育の充実を図る。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生きる力をはぐくむ教育活動の充実	○	○	○	○	○
3	社会に開かれた教育課程の推進	○	○	○	○	○
4	夜間学級の教育活動の充実	○	○	○	○	○

## 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●			
確かな学力の定着と知的好奇心や自己肯定感をはぐくむ指導の充実		令和6年度区調査 目標通過率 75% 年度末到達度テスト 目標正答率 70%		<b>自己評価の際に記入</b>							
B 目標実現に向けた取組み											
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●		
継続	学習 ウィーク	全生徒 英語 数学	5月～ 2月	月に1回、学習ウィークを設定する。学習ウィークの朝学習の内容は、全校英語又は数学とし、週末の放課後に確認テストを行う。また、不合格者は次の週の放課後に補習を受け、再テストを行い、基礎学力の定着を図る。(今年度より朝学習を実質5分延長する。)	確認テスト 再テスト	全員合格					

継続	自主的な家庭学習への取り組みを促す指導	全生徒・全教科	通年	授業の受け方や家庭学習の仕方を示した冊子「各教科の学習法」を配布し、自主的に家庭学習に取り組む指導を継続する。	連絡帳（毎日提出）で確認する	冊子の4月配布
継続	放課後学習教室	希望生徒・全教科	定期考査前等	個別に支援し、理解が不十分な内容の解消を図る。（今年度より学習ウイーク外の補充時間を増やす。）	開講教科	5教科実施
継続	サマースクールの実施	全学年・5教科	夏季休業日	当該年度の前期前半の内容について学習のつまずき解消を図る。	日数 開設教科	7日間実施 5教科実施
継続	論理的な思考力の向上	全生徒・全教科	通年	「論理的思考を進めるために必要な発言ルール」「論理的思考を進めるための思考スキル」を掲示	掲示の有無 発表活動や作文等での活用	4月の掲示 活用率80%以上
継続	各種検定	希望生徒・3教科	年間	年3回、校内において、英検、数検、漢検を実施する。	回数	年3回実施
継続	教員の指導力の向上	全教員	年間	授業の始めに、「めあて」や「学習課題」を示し、学習活動の見通しを示す	区調査	肯定的評価80%以上
継続			年間	生徒の興味・関心や自己肯定感を高める工夫を行う。	生徒アンケート	肯定的評価を4月時より超える。
継続			年間	授業や朝学習、補充教室、長期休業日等でA Iドリルを効果的に活用する	面接、授業観察	5教科教員
継続			年間	小中連携研修を年間7回行う	回数	年7回
継続	タブレット端末の効果的な活用	全教員	年間	学習のねらいに応じて、授業の中で、一人一台タブレットを効果的に活用する。	面接、授業観察	全教員の具体的な活用例を集約し共有する。

重点的な取組事項－２		生きる力をはぐくむ教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
キャリア教育の求める汎用的能力の向上と不登校の組織的な対応の充実を図る。		学校生活アンケートの基本的な生活の項目の肯定的な回答を80%以上にする			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
課題対応能力・自己理解・自己管理能力の育成	学校生活アンケートの学校生活に主体的に参加している項目の肯定的回答が80%以上	日々の委員会活動や学級活動、学校・学年行事、部活動等に生徒が主体的に取り組む指導を継続的に行う。			
人間関係形成・社会形成能力の育成	学校生活アンケートのコミュニケーションスキルやチームワークに関する項目で、肯定的な回答が80%以上	各教科、総合的な学習の時間等におけるグループワークの指導や挨拶の指導に継続的に取り組む			
キャリアプランニング能力の育成	学校生活アンケートの学ぶことや働くことの意義に関する項目で肯定的な回答が80%以上	自己理解を基本に3年間を見通した進路指導を行うとともに、学ぶ意味や目的を理解させ、自ら主体的に学ぶ姿勢を養う。			
不登校の組織的な対応の充実	月1回の「心の声」(生活アンケート)やいじめアンケート(区年3回)及びQU(2回)の実施。サポートルームの定期的な開設と校内委員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校独自の生活アンケートやいじめアンケート、QU検査等をもとに、生徒の実態を教職員で把握共有し、組織的な指導に生かす。</li> <li>・月～金にサポートルームを定期的開設するとともに、校内委員会を週1回、外部機関との連携を取りながら実施する。</li> </ul>			

重点的な取組事項－3		社会に開かれた教育課程の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域・外部機関との連携を図り社会に開かれた教育課程を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を年6回以上開催</li> <li>・開かれた学校づくり協議会を年4回以上開催する。</li> </ul>			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策			
学校運営協議会、開かれた学校づくり協議会と連携した魅力ある学校づくり	重点的な取組項目を概ね達成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土曜事業部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動や道徳地区公開講座の参観などを行い、生徒の状況や教育課題を共有する。</li> </ul> </li> <li>○小中連携部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年生に学校生活に関するアンケートを取り、結果を学校と共有し、中1ギャップの解消に役立てる。</li> </ul> </li> <li>○家庭教育部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象に講演会を開催し、教育課題を共有し、地域や家庭の教育に生かす。</li> </ul> </li> <li>○評価部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域、教職員の意見を聴き、課題の解決に向け協力を得る。</li> </ul> </li> <li>○広報部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙を2回作成する。</li> </ul> </li> </ul>			
地域の力を活用した生徒の健全育成	地域行事へ生徒をのべ100人派遣し、地域関係者の指導を得る機会にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に生徒を派遣し、地域関係者との交流を通じて地域に貢献する態度と社会人としてのマナーを養い、自己肯定感を高める。</li> </ul>			
学校の教育方針・教育活動の発信と情報提供	学校説明会3回、学校だより10回の発行、HPの毎日の更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の活躍や生活の様子を積極的に発信し、学校の教育活動への理解を深め、家庭での教育の一助とする。</li> </ul>			

重点的な取組事項－4		夜間学級の教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の事情や学習の状況を踏まえた教育活動を充実させる。		生徒の実態に応じた学年や学級を提示し、環境への円滑な適応を図るとともに、個に応じた指導の工夫を図り、80%以上の肯定的評価を得る。			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策			
学習指導の充実	生徒一人一人の事情や学力の状況を踏まえた個別指導を行い、相談期間での面談等で、80%以上の肯定的評価を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の事情や学習の状況を踏まえた個別指導の充実を図る。</li> <li>・入学前面接を重視し(質問事項の改善、見学時の対応の変更等)生徒情報を入学後の適切な指導に役立てる。</li> </ul>			
夜間学級の理解を深める広報活動	区内中学校への広報活動の充実と区内中学校からの形式卒業者の適切な受け入れを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開や区内34校への広報活動などを通じて、夜間学級への理解を深め、形式入学者の受け入れを拡充する。</li> <li>・公共な場所に入学案内のチラシを置いてもらうとともにホームページで広報を行う。</li> </ul>			
特別活動の充実	学校行事や夜間学級連合行事へ80%以上の生徒が参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導を充実させ意欲的に行事に参加する姿勢を養う</li> <li>・所属意識や自己肯定感を高めていくために、事後指導での発表活動等を行う。</li> </ul>			
GIGAスクール構想の推進	全教員が生徒一人一台タブレットを効果的に活用した授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台タブレットの活用事例についての研修を行うとともに、授業のねらいに応じた活用を図る。</li> </ul>			